

(科目コード : 2006920128AA)

【改訂】第7版(2018-03-15)

【科目】経済思想

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】選択

【学期・単位数】後期・2単位

【対象学科・専攻】生産システム,環境 1・2年

【担当教員】河合 恭平

【授業目標】

経済思想の用語を理解し、その内容を説明することができる。

経済思想の内容を検討し、その利点と欠点を提示することができる。

経済思想の学習内容を用いて、受講者自身の経済行動、福祉、社会問題等について考えることができる。

【教育方針・授業概要】

働く、お金を得る、物を買う、食べる、寝る、税金や保険料を払うなど、私たちが日常的に行っていることは、経済にとって基礎的な行為です。仕事やお金の話しは、ときにわずらわしく、汚さをイメージさせることもあります。経済活動は私たちが生活するために欠かせないものです。この講義では、そうした経済がどのようなものであり、どうすれば私たちにとって良いものでありうるかについての、これまでの歴史上になされてきた思考、すなわち経済思想を人物ごとに学習します。特に、経済と社会、福祉との関わりにも重点を置くことで、皆さんが仕事や生計など日常の経済行動、社会のあり方、社会問題を考え直したり、また時事的な経済動向を考えたりするための知識を提供します。

【教科書・教材・参考書等】

教科書は指定しません。

参考書：八木紀一郎，2011，『経済思想 第2版』（日経文庫）日本経済新聞社。

小峯敦編，2010，『福祉の経済思想家たち【増補改訂版】』ナカニシヤ出版。

金井雄一・中西聡・福澤直樹，2010，『世界経済の歴史 グローバル経済史入門』名古屋大学出版。

市野川容孝・宇城輝人編，2013，『社会的なもののために』ナカニシヤ出版。

毎回、授業中にプリントを配布します。

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

パワーポイントと板書による講義形式です。授業ごとにリアクション・ペーパーを提出してもらいます。また、テーマに応じて、視聴覚資料を用いたりディスカッションなどを行ったりします。

【メッセージ】

経済、社会、福祉に関する先人たちの知恵を借りながら、ときに批判的に検討し、望ましい経済政策、自身の経済行動、社会問題の解決策などを考える能力を養いましょう。ニュースや新聞での報道内容を見る眼も変わってくるはずです。

【成績評価方法】

[後期]期末試験：80%、授業への積極性・課題（リアクションペーパー）など：20%

【達成目標】

| | 達成目標 | 割合 | 評価方法 |
|---|----------------------------------|------|---------------------------------|
| 1 | 経済思想の用語を理解し、その内容を説明することができる。 | 50 % | 期末試験40%の割合で評価する |
| 2 | 経済思想について、その内容を検討し、自身の考えを述べるができる。 | 50 % | 期末試験40%、リアクション・ペーパー20%の割合で評価する。 |

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、多種多様な人間文化と社会生活を理解するとともに、ものごとに対して多角的観点から考察できる力を涵養する

【授業計画】（経済思想）

| 回数 | 授業の主題 | 内容 | レポート | 宿題 |
|------|---------------|---|------|----|
| 第1回 | イントロダクション | 授業概要、経済思想を学ぶ視点・意義 | | |
| 第2回 | 経済史序論 | 私たちはなぜ働き、物を買うようになったのか？（資本主義経済の始まりまでの経済史の概観） | | |
| 第3回 | ロック | 物はどうすれば自分のものになるのか？（労働論、財産論） | | |
| 第4回 | アダム・スミス | 神の「見えざる手」とは？（自由放任主義、分業論、道徳論） | | |
| 第5回 | マルサスとリカード | 救貧法批判、人口論、賃金論 | | |
| 第6回 | ベンサムとJ・S・ミル | 幸福になるには苦痛を避け、快樂を求めればよい？（功利主義、最大多数の最大幸福） | | |
| 第7回 | 社会主義とマルクス | 労働がつかく感じられるのはなぜなのか？（経済学批判、労働論、疎外論） | | |
| 第8回 | マーシャル | 生産性原理、最終効用原理、生活基準 | | |
| 第9回 | ウェッブ夫妻と社会改良主義 | 経済で助け合うにはどうすればよいのか？（ナショナル・ミニマム、福祉国家） | | |
| 第10回 | ドイツ歴史学派と社会政策 | 講壇社会主義（シュモラー、ワグナー、プレントナー）、社会政策論争 | | |
| 第11回 | M・ヴェーバー | 利益を求める経済活動の始まりは禁欲にあった？（プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神） | | |
| 第12回 | ヴェブレン | その人がどんな人かは買った物から分かる？（誇示的消費、制度学派） | | |
| 第13回 | ケインズ | ニューディール政策とは？（財政政策、福祉国家、ベヴァリッジ報告） | | |
| 第14回 | K・ポランニー | 自己調整的市場、二重運動、大転換 | | |
| 第15回 | 新自由主義の系譜 | ハイエク、ノージック、オールド自由主義 | | |